

第 6 回国際芸術・学術 (Arts & Sciences) 拠点構想研究会 (A&S 研究会)
開催記録

日時: 2020 年 6 月 23 日 (火) 17:30-19:00

開催方式: オンライン開催 (Zoom)

出席: 27 名

記録: 山田美香

講演: 洪 恒夫 (東京大学総合研究博物館特任教授)

「アートとサイエンスを結ぶデザイン」

司会: 秋光信佳

参加者: 27 名

国際芸術・学術拠点構想研究会メンバー

研究会代表:

松岡俊二: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 (環境経済・政策学)

研究会副代表:

秋光信佳: 東京大学アイソトープ総合センター教授 (生命科学)

メンバー:

安部 良: 安部良アトリエ一級建築士事務所代表 (建築)

芥川一則: 福島高等専門学校教授・学科長・副校長 (都市経済学)

青井哲人: 明治大学理工学部教授 (建築史)

船曳 淳: 株式会社三菱総合研究所アライアンス推進室

寿楽浩太: 東京電機大学工学部准教授 (科学技術社会学)

洪 恒夫: 東京大学総合研究博物館特任教授 (空間デザイン)

中嶋聖雄: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 (文化社会学)

松永美穂: 早稲田大学文学学術院教授 (ドイツ文学&翻訳論)

宮野 廣: 日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会・委員長 (原子力工学)

森口祐一: 東京大学大学院工学系研究科教授 (環境システム工学)

永井祐二: 早稲田大学環境総合研究センター研究院准教授 (環境工学)

小野田弘士: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 (環境システム工学)

山本麻紀子: 京都市立芸術大学構想設計専攻・非常勤講師 (アーティスト)

吉田恵美子: NPO 法人 the People 理事長・いわきおてんと SUN 企業組合代表理事

[欠席]

長谷川祐子: 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授 (現代アート)

岡田久典: 早稲田大学環境総合研究センター上級研究員 (地域環境論)

中谷礼仁: 早稲田大学理工学術院創造理工学部教授 (建築史)

坪倉正治: 福島県立医科大学特任教授 (公衆衛生学)

オブザーバー:

勝田正文: 早稲田大学名誉教授

小林正明: 中間貯蔵・環境安全事業株式会社代表取締役社長

松島武司: 福島イノベーション・コースト構想推進機構

師岡慎一: 早稲田大学名誉教授

薮本沙織: 株式会社三菱総合研究所

山口 知: 安部良アトリエ一級建築士事務所

事務局:

李 洸昊: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科助教

中野健太郎: 早稲田大学大学院環境エネルギー研究科

Yunhee CHOI：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
朱 鉦：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
山田美香：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

議題

開会挨拶：松岡俊二（研究会代表）

- ・「中間報告メモ」について説明を行った。
- ・中間報告に向け、少人数で議論・打合せをしながらまとめていくことの協力を要請した。
- ・森口委員より、日本学術会議の防災・減災学術研究会において、復興庁の「福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議」のとりまとめ最終案が話題となった。国の動きと違う学術会議として何かをしないといけないという意識はあるようだが、改選時期とも重なっており、タイミングが良くない印象である。

議題 1. 洪 恒夫(東京大学総合研究博物館特任教授)

「アートとサイエンスを結ぶデザイン」

- ・「アートとサイエンスを結ぶデザイン」をテーマに、3部構成で報告を行う。本題に入る前に、自己紹介を兼ね、今までの取り組み事例の紹介をし、多様な学術分野の活動例を示す。
- ・「拠点をデザインする」ということ。実効性を生み出すという視点からデザインを広義に捉えることを提案。自身が多く手掛ける展示は空間をつかったコミュニケーションであり、空間・デザインをつかって、研究成果をどう伝えるかに注力している。デザインは課題を解決するもの。アートとサイエンスをデザインでどのようなつながりか。拠点の創造をどのようにデザインするかが課題解決につながっていくのだろう。
- ・そのためには、課題が何か、訪れてどうやって何かの収穫を持って帰ってもらうのかということを経営する。その課題解決のプロセスが重要だと考える。そのためには、フィロソフィー・ベネフィット・スペックを関連づける必要がある。中でも、フィロソフィー、つまり、事業の方向性となり、大切にしていけるものは何かを、明確にする必要がある。スペックは、有形・無形いずれもある。
- ・「アート&サイエンスのかたち」をテーマとして、アート&サイエンスというコミュニケーションのアプローチについての4つの事例 ①ふじのくに地球環境史ミュージアム（施設&展示）、②ウェルカム・コレクション（施設&展示）、③石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ（展示）、④2001年宇宙の旅（映画のバックグラウンド）を紹介する。
- ・「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は、問題を提起し、解決課題を考える思考参加型のミュージアムである。「考えるきっかけとなる展示、美術館のように観賞する中で何かに気づく展示」という県からのオーダーにより、問いかけ・思考・対話・行動で構成され、学び・考えることを誘発する施設を具現している。
- ・A&Sの拠点スペックについて、エコミュージアムのような地域にある資源を紡いでいくのスタイルが、浜通りでは実効性のあるものとなるのではないかと考える。
- ・最後に、アート・サイエンス・エンジニアリング・デザインの各々の役割を再定義する試案についてふれた。

質疑および議論

議題 2. 今後の予定について

- ・次回の日程及び今後の進め方と予定の確認を行った。

第7回 7月7日(火)18:00-19:30

中嶋聖雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「震災アーカイブの試みから学術と芸術の関係を考える」（仮）

第8回 7月後半

松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「中間報告（提言）について」